

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ④7

橘町HP <https://tachibana-net.jp> **歴史・史跡** クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和8年5月1日
責任者：吉野 勝美
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

片白区長 諸岡 隆裕さん



公業さんのこっちに来んさってからの活動バ、いよいよ今月号から本格的に紹介していくネ。

AIさんと会話していくので、劇画調になっていくバイ。

断っとくバッテン、ルビのせからしかけん減らすし、主人公も変ゆっケン。



●今月号は、武雄の荘官たち

- ・44号ウラ面の吹き出しに、「③うちの領主さんとうまくいくやろか」って書いたけど、その続きを書くな。
- ・平安時代には各地に荘園ができ、権利関係がどんどん変わっていく。

●公業さんが来た頃の長島庄

- ・1237年には京都蓮華王院の荘園となっていたよ。
- ・そこには複数の荘園管理者がいて、複雑な権利関係にあったと考えられているね。

●どんな人がいたか

- ・一人は後藤宗明と言う人。墓崎荘を治めていた。
- ・もう一人は岩永重直？（まだ研究中！）
- ・服部先生は5人の人物は確実にいたとしているヨ
- ・さらに、当時は神社やお寺が権力者だったので、武雄神社宮司も長島庄の一部を領地していたと思うね。
- ・でも、潮見神社がどっちの立場だったかは、全く資料がないね。

●主な登場人物



橘公業（主人公）

後藤宗明

武雄家門

公業さんが着任して最初の収穫のとき、このような争いがあったと思うね。アッ！ソウソウ。会話はAIが考えたものだよ。ナレーションはミサエちゃんだよ。



★① プロローグ（出会い）

「時は鎌倉時代。1237年秋の話なの。

鎌倉幕府は平家が所領していた西日本の荘園領に対し、関東武士を地頭などの役職に任命して西日本各地を領地させたわ。でも派遣された先には従来からの荘園管理者がいたので、荘園の各種権限の領有権を争うことになったの。

従来からいる荘園管理者には、国衙領を管理してきた後藤宗明さんや武雄神社大宮司の武雄家門さんなどがいます。

一方、派遣された公業さんの一党は、烏帽子直垂姿に帯刀しています。在来の役人や神主たちと、派遣された関東武士が、領地を巡って領有権を主張し合っています」



ナレーターのミサエちゃん



橘公業郎党 「ここは、ワシらが幕府から治めよと言われた土地じゃ」

後藤宗明 「何を申す！ここは、ご先祖、章明様いらい、代々譲りうけて来た土地じゃ」

武雄家門 「さようじゃ！昔から私どもに献上してもらっておる」

注) 右側の宗明は証拠の書類をかざしている。武雄大宮司も証拠の紙を持っているが、左側の公業の郎党たちも地図と記録を片手にしている。



ワシは、^{れんげおういんりょう}蓮華王院領となつた長島荘の中の一部^{注1)}を治めている。館からは桜山が見えるし、館に温泉も引いておる。

ここは^{つかさきしょう}墓崎庄の^{ごとうやかた}後藤館。宗明が温泉館から外を・・・



AI による解説

後藤^{むねあき}宗明（後にこの土地の支配者になる）は、都の貴族の末裔^{まつえい}を自

称し、古びてはいるが質の良い狩衣^{かりぎぬ}をまとっている。

宗明の館では、彼とその郎党が集まっている。彼らの視線の先、開け放たれた戸口の外では、秋の収穫物を巡る喧騒が・・・そして、その中心に「彼ら」がいた。

「……見ろ、あの野蛮な振る舞いを」

（注1）後藤氏の^{つかさきしょう}墓崎庄は長島荘の一部、桜山周辺だった

宗明が吐き捨てるように言った。視線の先には、鎌倉から派遣されてきた新地頭、橘公業の郎党達。彼らの姿は、この西国の田舎にはあまりに異質^{いしつ}だった。質実剛健な鳥帽子^{しつじつこうけん}に直垂姿^{まぼし}。腰には、都人が持つような雅な太刀ではなく、人を斬るためだけに研ぎ澄まされた実戦的な大太刀を帯びている。彼らは馬上で大声を上げ、百姓たちが運び込む米俵^{みやび}を検分し、時には強引に自分たちの倉へと運ばせている。

ここは杵島郡^{ぐんが}の郡衙^{注)}。奈良時代に立派だった庁舎は見る影もありません



注) ウィキペディアによれば、「公業は秋田開発において、水運を積極的に強化し、八郎潟舟運と雄物川舟運を日本海で繋ぎ、河川においても舟運に従事し秋田平野の開発を推進した。八郎潟東岸には巨大な製鉄炉を建造し洲崎には堀で囲まれた武家屋敷街を建設した」とあります。公業がやってきた当時は、潮見川は杵島山の麓を流れ、橘盆地の北半分は葦でおおわれその奥に有明海の河口が白石辺りまで見えていたと想像します。「郡衙」とは、郡役所のことです。

（注2）上2枚の絵は AI に描かせ、宮下が一部加工を加えたものです